

伊勢・三河湾貧酸素情報 (H28-17号)

平成28年10月4日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成28年9月28、29日、10月3、4日に伊勢・三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しましたが、その結果は以下のとおりです。

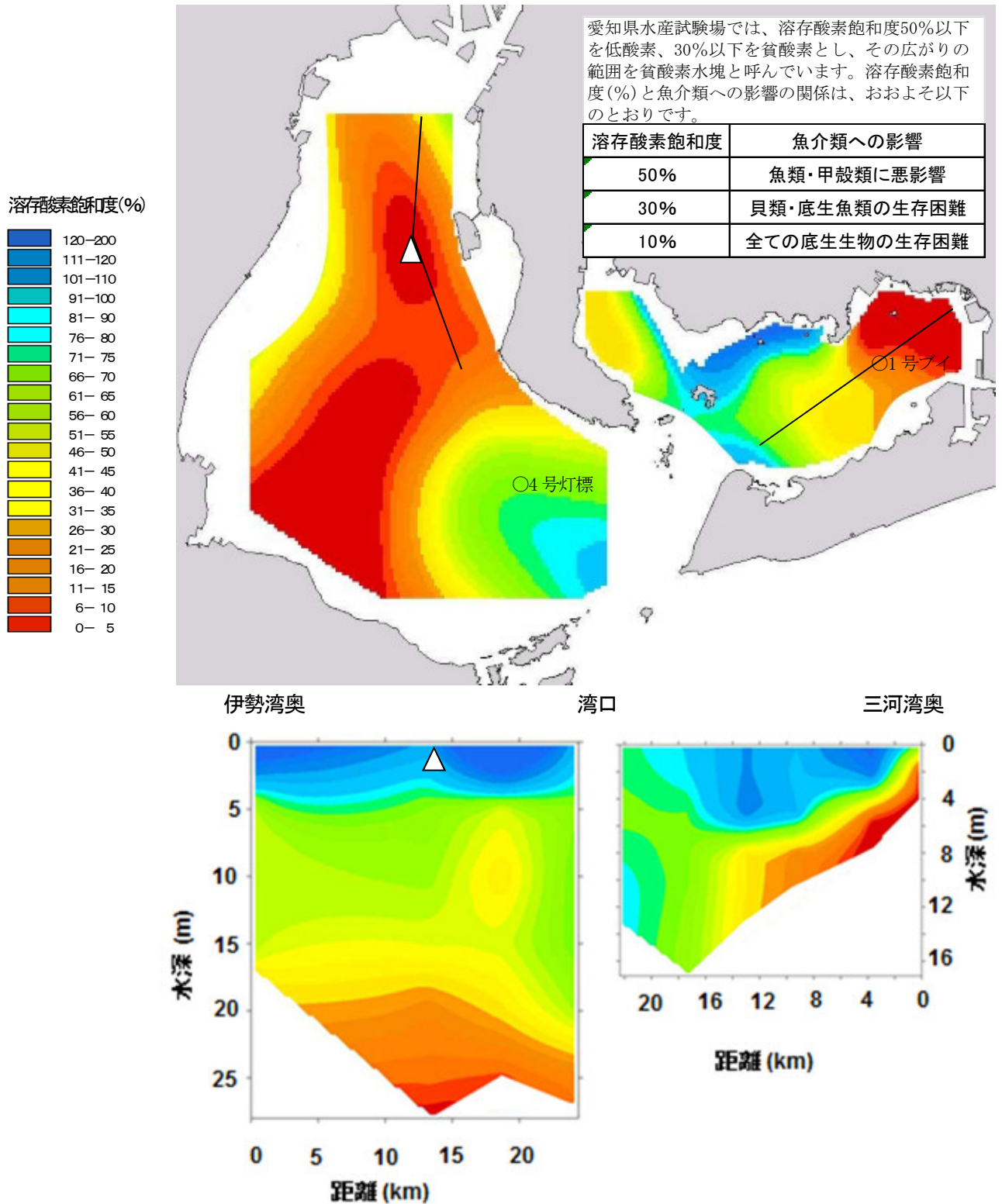


図1 伊勢湾 (9月28、29日)、三河湾 (10月3、4日) 底層の溶存酸素飽和度の分布 (上図) 及び上図直線部分の鉛直分布 (下図) (愛知県「海幸丸」、「へいわ」調査)

伊勢湾

9月28、29日の調査結果を図1、表1に示しました。前回調査（9月5日）と同様に湾中央部を中心に貧酸素水塊が確認されました（図1）。国交省中部地方整備局が所管している伊勢湾の水質モニタリングシステムの第4号灯標（内海沖）の海域では、9月26日以降は貧酸素水塊は観測されていません（図2）。

今後は、台風18号の影響により貧酸素水塊が縮小すると考えられます。しかし、伊勢湾全域で珪藻類の赤潮が発生していることや海域の水温がまだ高いことを考慮すると、その後は再度、貧酸素化が進行すると考えられます。

表1 調査時の水温、塩分

	水温(°C)		塩分	
表層	25.2	~ 26.5	9.2	~ 26.9
底層	23.0	~ 25.0	32.2	~ 33.6

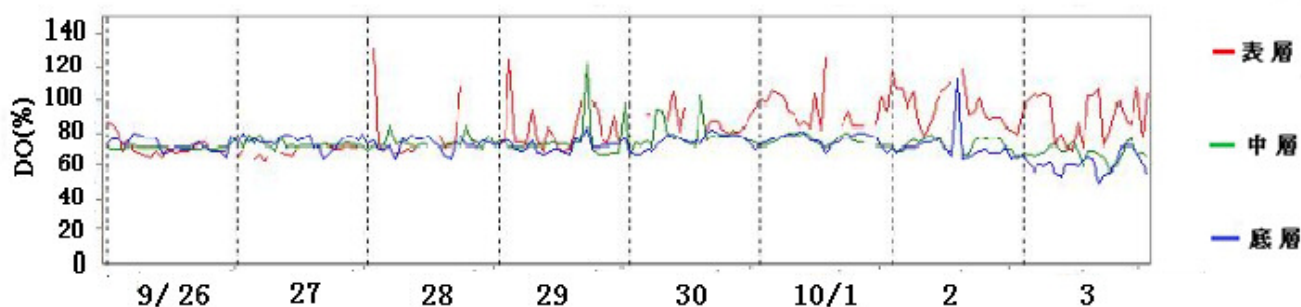


図2 伊勢湾モニタリングシステムの第4号灯標の溶存酸素飽和度の経時変化（中部地方整備局HPより）

三河湾

10月3、4日の調査結果を図1、表2に示しました。前回調査（9月26日）と同様に渥美湾奥部を中心に貧酸素水塊が確認されました（図1）。

自動観測ブイ1号（蒲郡沖）のデータをみると、底層では貧酸素水塊が継続してみられ、表層では赤潮により、溶存酸素飽和度が高い状態が継続していました（図2）。

降雨の影響により表底層の塩分較差はやや大きくなっているものの、水温較差は小さく、密度較差も小さい状況です。このため貧酸素水塊が湧昇しやすい状況となっており、10月4日には蒲郡市地先の一部の海域で苦潮が発生しました。今後、台風18号により非常に強い風が吹くと貧酸素水塊が解消することも考えられます。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)		塩分	
表層	25.0	~ 25.9	18.7	~ 31.0
底層	24.3	~ 25.5	28.6	~ 32.4

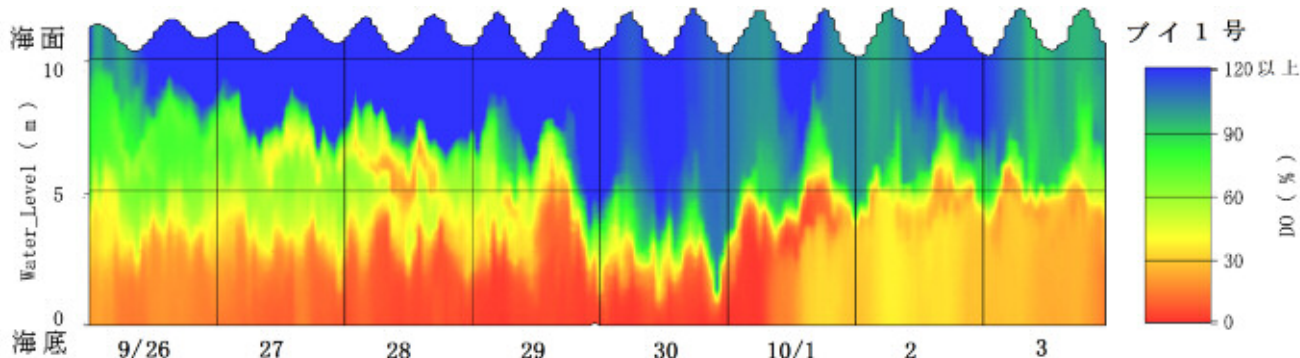


図3 溶存酸素飽和度（DO）の経時変化（自動観測ブイ1号）

参 考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

溶存酸素飽和度(%)

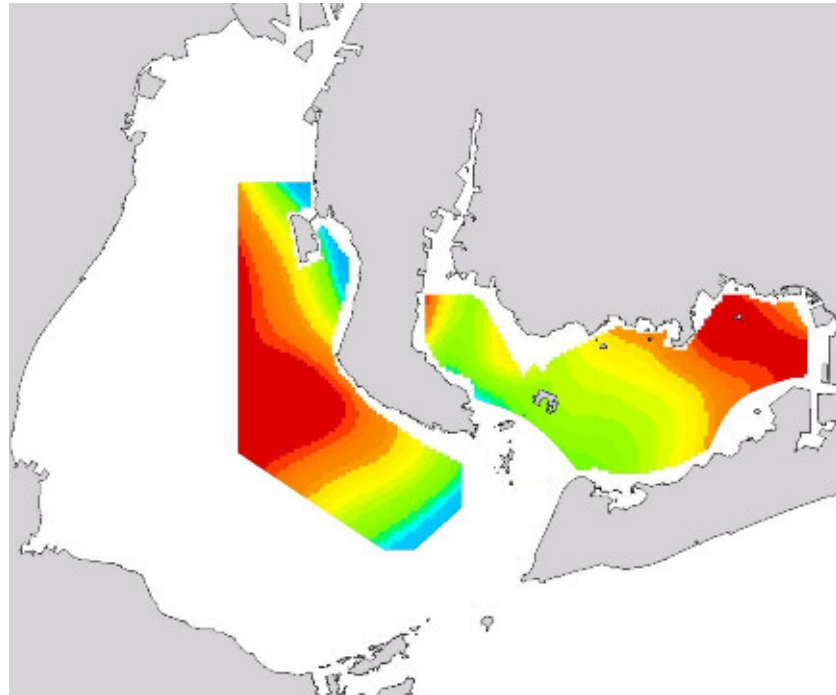
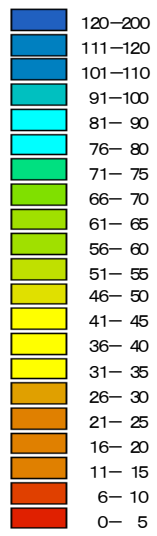


図4 平成28年9月5日(伊勢湾)、9月26日(三河湾)